

令和5年7・8月号(304号)
(皇紀2683年) 毎月1日発行

新風

編集人 川畑賢一

発行人 魚谷哲央
年間購読料 2,000円

維新政党・新風本部
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル
第2ふじビル4階
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800
https://shimpu.jpn.org/
otayori@shimpu.jpn.org

台湾有事は沖縄有事

内部から侵食される 国境の砦・沖縄

八重山日報編集主任 仲新城誠

沖縄県の玉城デニー知事は七月五日、日本国際貿易促進協会(会長・河野洋平元衆院議長)の訪中団に同行し、北京で中国の李強首相と面会した。新型コロナウイルスの影響で中断してゐる中国と沖縄の直行便再開を要請したが、中国と沖縄の間で最大の懸案となつてゐる尖閣諸島問題に関しては、お互ひに一言も触れなかつた。

海警局艦船の無法な威嚇

尖閣諸島は沖縄県石垣市の行政区域だが、中国が一方的に領有権を主張し、周辺海域に海警局に所属する艦船を四隻体制で常駐させてゐる。

海警局の艦船は恒常的に

領海侵入を繰り返し、石垣島などから出漁した日本漁船が操業のため尖閣周辺海域に入ると、接近や追跡などの行為で威嚇する。日本の漁業者は、海上保安庁の護衛がなければ事実上、周辺海域で操業できない現状だ。

中国船の領海侵入は、平成二十四年(二〇一二年)の日本の尖閣国有化以降、もう十年以上も続く。

私は平成二十五年(二〇一三年)、石垣島から漁船に同乗して尖閣周辺海域に行つた。領海侵入した中国艦船が待ち構へてゐて、私たちの漁船に急接近。千トン級の艦船が、わずかに十トン程度しかない漁船のやうな漁船に体当たりする素振りを見せた。

巡視船が中国船と漁船の間に割つて入り、何とか事なきを得たが、私がある時感じたのは、中国政府には「平和的な話し合ひ」で問題を解決しようとする思考回路など存在しないといふことだ。

「実力行使でお前の領土を奪ふ。それが嫌なら実力で阻止してみろ」。それが中国のやり方のすべてである。国際法も何もあつたもので

はない。まさに傍若無人である。

玉城知事の屈辱外交

玉城知事は李首相との会谈後、報道陣に対し、尖閣諸島問題に触れなかつた理由について「特に尖閣についての話は出なかつたので、私からもあへて何か言及することになつた」と述べた。尖閣問題に対する自身の考へを問はれ「もちろん政府の方針を踏襲する」と述べ、尖閣問題は日中の政府間協議で取り上げるべきとの考へを示した。

尖閣に関して、まるで他人事のやうな態度だ。中国の最高指導部に面会するチャンスをつかんだのだから、玉城知事は本来、沖縄のトップとして、嚴重に苦情を申し立てるべきだつた。

石垣市民から見れば、李首相と笑顔で握手だけして帰つてきた玉城知事の姿は情けないの一言に尽きる。

石垣市が選挙区の大浜一郎郎議員は「国際社会から見ると、何も言はないといふのは相手の言ひ分を認めたこと」と知事の態度に憤りを隠さない。

尖閣周辺に何度も出漁し、体を張つて中国艦船と対峙してゐる「尖閣諸島を守る会」代表世話人の仲間均市議は「尖閣が日中間の問題になつてゐるのだから、訪中したのなら解決の糸口を

見出すため、努力するのが知事の役割ではないか」と疑問を呈した。

玉城知事による訪中は四年ぶり三回目だ。令和元年(二〇一九年)の訪中時には当時の副首相と会ひ、中国中心の巨大経済圏構想「一帯一路」に「沖縄を活用してほしい」と提案し、物議を醸した。当時から中国べつたりだつたのだ。

今回の訪中は、知事が打ちだした「沖縄の独自の地域外交」の一環と位置付けられてゐる。台湾有事の可能性がささやかれる中、沖縄が周辺国や地域に平和を発信し、緊張緩和につなげようといふのだ。県は今年四月から「地域外交室」なる部署まで設置した。

だが前出の大浜県議は「外交は互ひの摩擦を調整していく重要な作業だ。知事には外交のセンスはない」と一刀両断する。確かに、重要な案件を抱へてゐる相手国に出掛けて行つて、耳当たりのいい交流の話だけして帰つて来るのでは「外交」の名に値しない。それをあへて外交と呼ぶなら「屈辱外交」にほかならない。

もつとも、知事は訪中直前の県議会で、大浜県議から尖閣問題を取り上げるかどうか聞かれ、自ら尖閣問題を持ち出す気はないと言明してゐた。

知事が北京で河野元衆院議長の際に席を用意され、

李首相と直接言葉を交はせる「厚遇」を与へられたのは、尖閣問題に言及しないことの見返りだつたのだらう。知事はいはば、間接的に「尖閣を売る」ことで中国最高指導部の歓心を買つたのだ。

中国の軍事的恫喝

現在、沖縄県民にとつて最大の懸念事項は、言ふまでもなく台湾有事勃発の可能性だ。台湾から日本最西端の与那国島までの距離は約一〇キロしかない。

故・安倍晋三元首相が「台湾有事は日本有事」と発言して話題になつたが、別の言ひ方をすれば「台湾有事は沖縄有事」にほかならない。そのことが可視化されたのが、令和四年(二〇二二年)八月、中国軍が台湾を包囲して行つた軍事演習だ。

中国軍は弾道ミサイル六発を八重山諸島周辺に着弾させた。着弾場所は、五発が波照間島周辺の日本のEEZ(排他的経済水域)、一発が与那国島周辺だつた。EEZ内に弾道ミサイルを撃ち込むのは、習近平国家主席自身の決断だつたことが明らかにされてゐる。

つまり中国は、台湾有事の際、日本が介入すれば、八重山諸島周辺に「ミサイルの雨を降らせる」といふ

新風驟雨

しんぶうしゅう
今年五月、Jリーグ・浦和レッズがACL(アジアチャンピオンリーグ)を制し、三度のアジア王者に輝いた。過酷なアジア各地への遠征は、リーグ戦などの試合をこなしながらの戦ひであつた。選手・コーチ・スタッフも素晴らしいが、海外まで駆けつけて熱い声援を送つたサポーター達のことも忘れてはならない。▼彼らの心の奥底には日本の誇り、大和魂があつた。しかしながら大手マスメディアはこの浦和の戦ひぶりを大きくは取り上げなかつた。あの三月のWBCの喧嘩とは打つては違つた。▼なほ、今年のACLには横浜FM、川崎、広島、甲府、浦和が出場する。特に人口八十万人の山梨から天皇杯制覇を経て出場する甲府には注目だらう。▼日本代表もいいが、この機会にACLに出場する日本のJリーグクラブを応援するのもいいのではないだらうか。

(竹)

本紙目次

- 一頁：台湾有事は沖縄有事
内部から侵食される国境の砦・沖縄
- 二頁：党声明他